

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2131300599		
法人名	株式会社 アイ・ディー・ジャパン		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	岐阜県加茂郡東白川村越原16-1-1		
自己評価作成日	平成30年12月10日	評価結果市町村受理日	平成31年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JivvosyoCd=2171300599-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成30年12月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根差した暮らしの提供 家庭的な環境で常に目と心の行き届いた介護 旬の食材を使った家庭的な料理や郷土料理の提供 季節ごとの飾りつけなどの作成 職員自身も個人の個性や特技を生かし日常業務に創意工夫を持って取り組んでいる 利用者のニーズに応えられるようなケアの向上を目指している
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者、職員ともに地元出身者が多く、馴染んだ環境の中で穏やかな生活が営まれている。民家改装のホームは台所、食堂、居間が一体となっており、職員はどこに居ても常に利用者へ目を向け、適切な支援が出来る状態にある。住み慣れた家と同じ様相とするため、畳を取り除いてフローリングに改装した居室もある。利用者の呼称も、地域には同姓が多いため、苗字ではなく慣れ親しんだ“名前”で呼び合っている。近所からは野菜の差し入れが多く、献立に利用して食事の楽しみとしている。 今年から、地元病院の訪問看護ステーションから週1回の訪問を受け、利用者の健康管理をしている。主治医と訪問看護師の適切で速やかな対応により、7年ぶりにホームでの看取りを実現させた。地域に馴染んだホームであり、地域の社会資源としての役割を担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域性もあり、グループホームに必要とされる地域との密着はどこよりも出来ている。暮らしてきた地域で暮らし続けることが出来ることの大切さを職員もよく理解し、つながりを大切にしている	ホーム開設以来、玄関入口に手書きの筆字で基本理念が掲示してある。キーワードは“楽しく生活する”、“家族的な雰囲気”である。利用者、職員共に地元の人が多く、家族的な日常がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	村に唯一のグループホームであり、地域からとても大切にいただいている。ご近所の方も気軽に顔をだしてくださったり、まるで民家のようなお付き合いが出来ている	地元ではよく知られたホームであり、野菜の差し入れがあったりして、自然と交流が生まれている。月一回老人クラブのボランティアが掃除に来る。同様に、傾聴ボランティア(元保健師や役場職員)が訪ねて来る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブの出入りなどもありその際には雑談を交えたような相談を受けたり、運営推進会議などでは民生委員の方が交代で参加その際にご相談を受けたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価の結果などをお伝えし、今施設として何を今後取り組むべきなのかなどを報告しその際に感じた疑問や意見などをいただいている	運営推進会議は偶数月の第4水曜日、13時30分からと決め、年間6回の開催である。役場職員、地域包括支援センター職員、民生委員の出席があり、ホームの様子を伝えたあと意見・情報の交換をしている。	会議では、地域の独居高齢者の今後が話題となっている。地域包括支援センターや民生委員と連携し、地域の認知症高齢者に対する中核的な存在として機能されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小さな村の役場なため、担当者も個人のことまでよく把握してくださっている。相談など気軽にさせていただくことが出来たりとてもいい関係が築けている	村役場が主催(介護老人保健施設、病院、社会福祉協議会合同)した外部講師による事例発表会に参加した。運営推進会議では、介護保険に関する有効な情報提供があり、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフミーティングの時に「それは身体拘束になるから違う方法を考える」という考え方や意見が当然のように出るようになり当然のように身体拘束を排除する介護を出来るようになってきている	スタッフミーティングの機会を利用し、「身体拘束委員化」を開き、拘束のない適切な支援を目指している。職員は身体拘束しない介護が身に付いており、スピーチロックは実際の例を取り上げて注意をしている。出入り口は常に解錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待にあたり、違法行為なのかを理解している。それ以上に介護の業務にストレスを作らないような職場環境ができています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象になるようなケースはこれまでにないが今の時代背景から今後必要になる可能性があることは念頭に置いている必要があると考える		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に疑問点などが残らない様に説明は行っているが何か疑問などがあればいつでも返答させていただき ご納得いただけるようにつとめている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受診の対応などはご家族に行っていたいただき、疎遠にならないように訪問する機会をお願いしている。その際には気軽に職員などに意見を言うてくださる関係を構築する努力をしている	診療所への定期受診は、原則家族対応としており、家族が月に1、2回通院付添いのためにホームに来院している。その際に外食を楽しむこともあるが、家族の意見や要望を聞く機会でもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングに毎回参加し、運営への意見や疑問などを話す機会を設けている。普段何かあれば直接電話などをしていく。運営側もそれを反映できるように努力している	職員ミーティングは毎月1回、14時から非番の職員も出席して全員で行っている。ケア・カンファレンスになる場合が多く、気付いた事を運営に反映させるよう努めている。ミーティング議事録も残している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規定、給料規定にのっとり、人事考課なども実施し評価していく体制を整備している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修など、管理者が必要と判断した研修などには業務と認め参加している。必要時にはいろいろな知識を皆で共有し施設全体での向上をする努力をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	村内には同業者はいないが、隣接する市町村の職員や医療福祉の異業種と話す機会などには参加し交流や情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前面談を行い、要望などお聞きし、スタッフ間での情報共有を行う。入居後も常に様子や発言などから汲み取り、安心して暮らせるような援助につなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には家族の想いなどもお聞かせいただき、私たち施設がこのご家族にとってどのような役割をするべきなのかなどを考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居をすることが最適であるとは限らないことは常に判断の中にいれている。必要な時には他のカテゴリーの照会などもしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の中で「大きな家族」ということを話すことも多い。すべての人がここに必要な人なのであるという考え方をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と利用者との関係の継続のために何が出来るのか何が必要なのかを常に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	とても狭い村の中の施設であり 職員もなじみのひとりである。一緒に暮らしてきた環境を共有できる関係の者同士の共同生活となっている。外部からの面会者も来ていただいている	利用者の知人・友人が訪ねて来る。近所の人達も馴染みの関係であり、ホームの生活自体が馴染みの生活圏となっている。野菜の差し入れが玄関の横に置いてあったが、地域との馴染みの関係の証である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり方などは常に配慮し、支え合えるような関係を作れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も関係を一方的になくすのではなく、必要時には相談などにも乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人一人が親身に利用者の事を考え、対応している中で感じたことや汲んだことなどの意見を会議などで率直に話し、それについて皆で考える体勢が整っている	利用者と職員同士が馴染みの関係にあり、思いや意向は日常の生活の中で把握している。毎月の職員ミーティングには職員全員が出席し、情報を共有する仕組みがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴などは今後の生活においてかなり重要なことであり、利用時にはご家族からの情報提供をお願いしたり(シートへの記入)専門職などから聞き取りを行ったりしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前からの生活パターンなども情報収集し、1日の過ごし方などに反映させている。有する力を引き出し、必要な人になれるようなアプローチを考えて提供している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員、訪問看護師参加で行うミーティング内では個々に必要な援助内容などを毎月話し合い介護計画につなげるようにしている	訪問看護師が同席してカンファレンスを行い、利用者の変化に応じて介護計画を作成している。短期目標を1本に絞り、シンプルに分かりやすくしている。利用者個々の「介護記録」には、介護目標が記載してある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌に排泄表、スタッフ間の伝達のためのノートなどを利用し、確実に情報共有を行えるようにしている。ミーティング内でも日々の記録を見返し、具体的な出来事などを振り返ったりしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単独の施設であるため施設サービスの多様化はできないが、対応については画一的なものではなく、個人に向け多様な援助の提供を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での暮らしの延長上にある施設となっており、ここで暮らすことで地域の一員の間までいられるという事になっていると感じる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	村には病院は1つしかないため、専門医にかかる必要がない場合においては馴染みの病院に通う形となっている。ご家族の対応をお願いしているため、必要な情報提供は施設から行う場合もある	協力医療機関：東白川村国保診療所の医師(2名態勢)が往診に来てくれる。今年4月から白川病院の訪問看護師(2名態勢)が週1回訪問し、健康管理及び主治医との連携をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣町にある病院ではあるが訪問看護ステーションが毎週訪問している。24時間オンコールにて対応をしてくれているため、急変時など心強い		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関とも密に連絡をとり、現状の把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては入所時にも希望をお聞きし、状態が進行した時に再度ご家族と話し、必要な時々での確認などを行っている。今年度はおひとりの方の看取りを実施した	重度化や終末期の支援について、基本的には利用者・家族の意向を尊重し、主治医と相談しながら方針を決めている。今年度は7年ぶりの看取りをしたが、主治医と訪問看護師の適切で速やかな対応があった。看取りの手引きを整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個人個人での対応の違いなどもあり、シミュレーションなどを混ぜながら 実際に起こった時の対応などをスタッフ間で共有している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	日ごろから防災への意識を強くもつようになっている。防災訓練は年に2回行っているが、実施後には問題点や心配な点などを話しあい、やりっぱなしにならないようになっている	防災訓練は年2回行っている。数年前の災害時の避難で危険に遭遇したことを教訓とし、災害時にはホームに留まることが消防や役場に伝えてある。自家発電用のガソリン確保や電池式ランタンも備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	わかりやすく丁寧な言葉(方言を含む)での声かけを行い、何でもお一人ずつの対応にしている。小さな村でプライバシーの保護が難しい部分もあるが、守秘義務を徹底している	利用者一人ひとりを人生の先輩とし、敬う気持ちを常に持って接している。話の内容や言葉遣いに気を付けながら、利用者の動きに常に目配りしている。	村全体が運命共同体のような環境であり、利用者と職員との馴染みの関係が、個人情報やプライバシーの保護を損ねかねない。権利擁護に関する十分な職員研修を願いたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも本人に確認をする。そこで自分の意見などを表出できるような関係をつくるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての1日の流れはあるが、そこに無理に当てはめるような生活にならないようにしている。ご自身のペースで過ごしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみはご自身がだんだんと無頓着になる疾患ではあるが、必要な行為であることを職員も理解し支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえを行っていただいたり、施設の食材を使ったメニューなど食事が楽しくできるような工夫を常にしている。	元気な利用者が、食事の準備や食器洗いを手伝っている。利用者の食べ易いように、味付けや調理の仕方を工夫している。近所から差し入れされた芋類、葉物類は、利用者の気持ちにまで届いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録に残し 不足がないかの情報の共有を行い そこから体調の把握などにも結び付くため必要な援助を行えるため大切にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後には残渣が残っていたりしていないかの確認など行い、歯磨きうがいなどの声かけ口腔ケアを実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や様子で排泄の支援を行っている。安全安楽な排泄を出来るようその人に必要な方法での排泄を援助している	利用者は殆ど介助が必要な状態であり、職員配置の関係からも、排泄時間帯が重ならないように留意している。便秘対策として水分補給に心がけ、排泄時は背中を摩るなど、利用者の負担を和らげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄、出ていない日数などを表などで確認し、必要時には医師に相談し便秘にならないように常に配慮している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はお一人ずつゆっくり行い、体調や心理状況なども配慮しながら安楽に楽しんでもらうように努力をしている	入浴は一日4人を基本にしており、利用者は一日置きとなる。脱衣所を予め暖めたり、湯加減を調整したりして、利用者が心地よく入浴できるように努めている。頂き物の入浴剤が、利用者に好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の過ごしたいように過ごしていただいている。就寝時も快適に過ごしていただけるようお部屋の環境なども配慮し、安心安楽に過ごしていただけるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報シートとは個々のファイルに綴じてあり、いつでも確認ができる。どのようなお薬を服用されているのかなど職員も理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やADLに応じてどのような作業などを依頼するといいかを判断し、個々の力を活かした作業などを積極的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一時期、利用者の多くの方の状態が安定しなかったため、外出などに積極的にできなかったが、また時期を見ながら楽しみが出来るようにしたいと考えている	今年も地域の「文化展」に利用者の作品を出展し、利用者全員が観に出掛け、帰りに外食を楽しんだ。美濃歌舞伎を観覧に出掛けたり、季節には桜や紅葉を見に出掛ける。日常の外出として、ホームの周りを散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理できる方についてはご自身で管理され希望があればお買い物に行く機会も設ける。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方もおり、使い方などに特に制限はない。援助が必要な時は職員が手伝うことも可能である		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家改修の施設の良さを生かし、家の居間で過ごしているような空間となっている。季節の飾りや行事に向けた飾りなども楽しんで居心地の良い家を目指している	BGMが流れており、世間一般の家庭と同様な雰囲気である。その中で、利用者と職員との会話が自然と生まれている。玄関の上り口に近所から頂いた野菜類が置いてあり、居間では作品作りや洗濯物を畳むなど、思い思いに過ごす利用者の姿がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分である居間、食堂、台所が隣り合わせにあり どこでも好きな場所で過ごしていただける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れたものを持ってきてくださるようお願いしている。落ち着いて過ごしていただけるような部屋作りになるように努めている	民家を改装した施設で、増築部分以外の居室は殆どそのまま利用している。住み慣れた家と同じ様相とするため、畳を取り除いてフローリングに改装した居室もある。利用者は使い慣れた調度を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札や指示が書いてあり、文字が理解できる方にはそれで判断していただけるようにしたりしている。なるべくご自身で判断して生活していただけるようなアプローチを目指している		